

# 深イ～話！

No.13

——「捨てちゃえ、捨てちゃえ」ひろさちや著——

“人生の「影」をしっかりと見つめる“より

気象用語に“ホワイトアウト”というのがある。

南極観測の越冬隊に参加した人から教わったのだが、晴れてはいても、薄い雲が上空にあるようなときに、このホワイトアウト現象が起こるそうだ。

太陽の光が上空の雲に乱反射し、また下にある雪にも乱反射する。それで、あたり一面が「光」になってしまい、影がなくなる。



そうすると、方向も距離も分からなくなり、自分がどこにいるのか、どの方角に向かって歩いているのか、まったく分からなくなるのである。こういうときには、よくクレバス(氷河や雪溪の割れ目)に落ち込んで死ぬ人がいるという。

つまり、わたしたちは、「影」があるから物が見えるのである。「光」がないと物は見えないが、「光」ばかりになってしまっても物は見えない。

「光」と「影」があって、はじめて物が見えるのだ。

わたしたちの人生においても、「光」と「影」がある。「光」と「影」がなければならぬ。

「光」は幸福であり、「影」は不幸である。わたしたちは、幸福を希求し、不幸を嫌う。

不幸になったとき、一刻も早く幸福になりたいと、わたしたちは願う。

しかし、不幸があつてこそ、はじめてわたしたちは幸福になれるのだ、不幸がなくなれば、ひょっとしたらわれわれは幸福になることができない。

少なくとも、幸福を心から喜べなくなるのではないか……。

だとすれば、不幸になったとき、不幸から逃れようとしてあまりにジタバタしてはいけない。

ジタバタして不幸から脱出できるのであれば、そうしてもよいが、そうでないのであれば、むしろ不幸そのものをじっくり味わったほうがよい。不幸は人生の「影」であり、「影」をしっかりと見つめることによって、道が見えてくるのではないだろうか。

**不幸があつて、はじめて幸福になれる。不幸なときには、不幸をしっかりと見つめることで道は拓ける。**